

番 号	15請願第21号 (総務付託)
受理年月日	平成15年12月15日
件 名	中央防災会議に浜岡原発震災専門調査会の設置を求める意見書を提出することについて
提 出 者	坂田 昌子
紹介議員	谷口 敏也
要 旨	
<p>東海地震震源域の真上にある浜岡町には原子力発電施設が4基あり、なお1基が建設中です。本来は過去に大地震があった場所には原子力施設は建設できないというのが国の指針でした(原子力委員会「原子炉立地審査指針」)。しかし1970年、国は指針に反して中部電力に施設の建設を許可しました。原子炉立地審査指針には、原則的立地条件として「(1)大きな事故の誘因となるような事象が過去においてなかったことはもちろんであるが、将来においてもあるとは考えられないこと」と明記されており、さらに基本的目標として「敷地周辺の事象、原子炉の特性、安全防護施設などを考慮し、技術的見地からみて最悪の場合には起きるかもしれないと考えられる重大な事故の発生を仮定して周辺の公衆に著しい放射能被害を与えないこと」となっています。指針は原発施設としては最も恐ろしい放射能事故・災害を避けるため、絶対に破壊されてはいけないうるものとして原発施設を取り扱うためにつくられたものです。100%来ると予測されている東海地震は、ここで言われている「大きな事故の誘因となるような事象」そのものではないでしょうか。駿河湾が過去において巨大地震の記録を重ねてきている以上、浜岡原発は本来なら建てるべきではないものだったはずで、にもかかわらず、国は東海地震の発生を予測して「国による直前予知対策や震災軽減対策」をとり、中央防災会議では地震防災対策を行うという全く矛盾したことをしています。そんな対策を立てなければならない地域で原発を稼働させていること自体が大問題であり、ただでさえ老朽化し事故を繰り返している浜岡原発の危険性は最大級のものと考えてしかるべきです。</p> <p>中部電力は「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」により検討して安全だと主張していますが、未知の大地震はやって来るが原発は絶対に大丈夫などと断言で</p>	

きるわけがありません。浜岡原発が損傷を受け、放射能が放出されれば大変な事態になります。翌日には東京にも放射能災害が発生するものと思われ、京都大学原子炉実験所の故瀬尾健氏の「原発事故災害予想プログラム」によるシミュレーションでは、浜岡原発が損傷し放射能が漏れれば500万人が被曝死するという結果がでています。

このような深刻な事態が予想されるにもかかわらず、中央防災会議には東海地震に関する専門調査会が設置され地震の際の対応措置が決められましたが、浜岡原発に関する検討は何一つありません。中央防災会議は原発損傷後の補修方法、放射能漏れの際の周辺自治体や国への報告と対策（被災者の救援・退避の誘導・原発施設の封鎖）のシミュレーションを行うべきです。中央防災会議で一刻も早くこのことについての検討を行わなければならないと考えます。東海地震によって浜岡原発が崩壊すれば、東京はもとより国が失われます。私たちは背筋が凍る思いで生きています。

〔 請願項目 〕

原発震災は未然に防げるのか、内閣総理大臣に対して「中央防災会議に浜岡原発震災専門調査会の設置を求める」意見書を提出してください。